

令和 2 年大会アピール

本日、令和2年「北方領土の日」を迎え、わが国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島、すなわち北方四島の返還実現を目指し「令和2年北方領土返還要求全国大会」を開催しました。

日露両国間に平和条約が締結されないまま、74年の歳月が流れました。故郷を追われた元島民17,291名のうち多くの方々は、生まれ育った故郷に戻ることなく亡くなられました。今では生存者は6,000名を切り、平均年齢もまもなく85歳になろうとしています。刻々と過ぎる時の流れは、厳しい現実を私たちに突きつけています。

近年、日露両国によって北方領土問題の解決に向けて活発な外交交渉が重ねられていましたが、昨今の複雑な国際情勢の影響を受け、残念ながら領土問題では具体的な進展は見られません。

一方では、新しいアプローチに基づく経済活動として、北方四島における観光パイロットツアーなどが実施されました。

私たちは、「北方領土の日」制定の基本である北方領土問題の解決、日露両国間の平和条約の締結によって、両国間に真の平和と友好が構築されることを求めます。

大会では、政府と国民が一体となって、これまでも増して積極的に北方領土の返還要求運動を推進し、政府の交渉の後押しをする意思の統一が確認されました。

私たちは、北方四島の返還実現を目的に、次の通り決意を表明します。

記

- 一. 私たちは、北方領土問題の解決を目指し行動を推し進めます。
- 一. 私たちは、地域・職場・学校・家庭など、あらゆる場で啓発活動を行うとともに、返還実現に向け政・官・民のさらなる団結を深めます。
- 一. 私たちは、全国の仲間との連携をさらに深め、署名活動をより一層推進します。
- 一. 私たちは、四島交流の枠組みなど、あらゆる機会を活かし、北方四島の返還こそが我が国とロシアとの真の友好と信頼関係を築き、ひいては世界の平和に寄与するものであることを訴えます。
- 一. 私たちは、北方領土に残存する日本の建物保存に取り組みます。

令和2年2月7日北方領土の日

令和2年北方領土返還要求全国大会